



たつまきってなあに

強い風をともなつたうず巻き

たつまきは、おもに積乱雲からたれ下がってできる、強い風をともなつたうず巻きのことです。この風は、地球上で最も激しいものだといわれています。日本国内で、1年間に15個ぐらい発生しています。アメリカでは、たつまきのことをトルネードとよび、1年間に500～900個も発生しています。

たつまきによる風の速さは、1秒間に30～100メートルぐらいです。たつまきの強い風は、鉄骨の家をこわしたり、電車をひっくり返したり、自動車をもち上げて、ふき飛ばしたりします。

1978年、東京湾の北部を通ったたつまきは、1時間に、125キロメートルの速さで北東に進みました。そのときに、秒速52メートルの強い風がふき、鉄橋の上で、電車2両が横にひっくり返りました。

たつまきのでき方

たつまきは、ゾウの鼻のような長い雲のうず巻きが、雲と地上とをつなぎ、空気が地上から上空へ、激しくふき上げられてできます。

たつまきが起こっているときは、上空に空気のうすい所ができ、そこをうめるために、下から空気が、激しく吸い上げられています。そのとき、空気がうずを巻き始めます。

たつまきが多く発生するときは、台風や発達した低気圧、寒冷前線（冷たい空気が暖かい空気をおし上げて進む）が通るときなどです。（監修・村山 貢司）

